

総合技術研究会 2017 東京大学 参加報告

菅田 敏則 電気電子・情報技術分野

1. はじめに

総合技術研究会は、隔年で行われ東京大学での開催は 14 年ぶりである。その始まりは 1976 年に分子科学研究所技術研究会からであり、核融合科学研究所、高エネルギー加速器研究機構の 3 研究所の持ち回りで開催され、2001 年に初めて東北大学で開催された。これ以降は 3 研究所と大学が隔年で開催し、2003 年の東京大学での開催から大学での開催時には「総合技術研究会」として題されることになった。今回の参加機関は 103、参加者の総数は 900 名を超え、本学からは山田、河原、吉井、豊田、高柳、近藤、小池、菅田の 8 名が参加した。

2. 概要

期日：平成 29 年 3 月 8 日（水）～10 日（金）

場所：東京大学 本郷キャンパス

主催：東京大学総合技術本部

3 月 8 日(水)

8 技術分野の技術交流会

3 月 9 日(木)

シンポジウム

「技術研究会の歴史と今後について」

特別講演

「技術の粋を集めて挑む重力波の観測」

—KAGRA プロジェクト—

講師：東京大学 宇宙線研究所長

2015 年ノーベル物理学賞受賞

東京大学特別荣誉教授

梶田 隆章 氏

3. 研修内容

8 日の午後には参加人数限定の 8 技術分野の技術交流会が行われ、それぞれの分野に特化した内容であった。

9 日の開会式の前にシンポジウムが行われ、「総合技術研究会」「実験・実習技術研究会」「機器・分析技術研究会」発足の流れや、大きくなった総合技術研究会についての問題点などが話し合われた。

特別講演の後、12 分野、10 会場に分れて口頭発表および 2 箇所ですター発表が行われた。1 日目の終了後には別会場で情報交換会が行われた。9、10 日の 2 日間での発表数は口頭発表で 170 件、ポスター発表は 230 件であった。

本学からは河原夏江氏が「デジタル実験教材の社会貢献活動での活用」と題してポスター発表を行った。

4. おわりに

発表では、技術職員が日ごろ周りから要求されるいろいろな業務に対し積極的に対処していることや、日々技術の研鑽していることがわかった。本研究会で見聞したことを自らの糧とし、今後の業務遂行に多少なりとも生かせるように努力していきたいと思う。

